

第1139号

2026.2.12(木)

福島トンネFAX通信
週刊トンネ

福島県同胞生活相談センター
福島県郡山市鶴見坦 1-5-30
TEL 024(922)3554
FAX 024(932)6845

ニョメン年代別食事会

2月1日(日)には KORIYA で中通り地域の年代別食事会が、2月6日(金)には花朗亭で会津地域の年代別食事会が行われました。

ニョメン年代別食事会は女性同胞たちの横のつながりを強め、親睦を深めようと続いてきました。今回の食事会でも、久しぶりに同世代の女性同胞たちが集まり、色んな話に花を咲かせて楽しいひと時を過ごしました。

中通りの同胞女性が中通りと会津の食事会に手作りプリンやケーキを差し入れしてくれました。

福島ハッキョの子供たちを送っていたころから何かある度に作って持ってきてくれていた「お馴染みの味」に、同胞女性たちはなつかしさを感じつつ、会津では「私のこと覚えているかな?」「みんな元気になっているかな?」とケーキを通して地域を越えて、お互い近況を確認しあう、いいきっかけになっていましたし、「またすぐ食事会をしましょう!」と声があがっていました。

福島県内の女性同胞たちを結び絆も深めるニョメン年代別食事会をこれからも定期的に企画していきます。

長生炭鉱潜水調査で人骨発見

今から84年前の1942年、山口県宇部市の長生炭鉱で発生した水没事故により、坑道で作業中だった朝鮮人労働者136人をはじめとする183人が犠牲となった。

昨年8月に、炭鉱跡から労働者の遺骨とみられる人骨が発見されるなど、遺骨収容に向けた調査が急ピッチで進む中、6日午前から行われた潜水調査により頭蓋骨、歯と首の骨とみられるものが新たに見つかった。

遺骨収容地点は、前回遺骨を確認した水深43m。潜水したダイバーの伊左治佳孝さんによれば、同地点に到達すると、視界は良好で、「頭蓋骨だけでなく、人のままの形で確認された」という。今回は頭蓋骨を持ちかえることが目標だったため、それを優先し収容した。調査を進めるのは地元の市民団体「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」。日本政府が相も変わらず、遺骨収容への消極的な姿勢で一貫する中、今回は、これまで潜水を担ってきたダイバーの伊左治さんをはじめ、フィンランドやタイ、台湾など海外ダイバーたちも参加。7日行われる水没事故84周年犠牲者追悼集会に合わせて、遺族たちのもとに遺骨を返す一心で、今回のプロジェクトに臨んでいる。

一方、昨年収容された骨は、左大腿骨(太ももの骨)、左上腕骨(腕の骨)、左橈骨(肘から手首までの前腕にある2本の骨のうち、親指側にある骨)そして頭蓋骨と判明しており、今回発見されたのも、前回同様に事故犠牲者の遺骨の可能性が極めて高い。

(朝鮮新報2月6日【速報】記事より引用)

12	13	14	15	16	17	18
木	金	土	日	月	火	水
8日会				위대한 장군님 의 탄신절	음력설, 朝青 料理教室	15日会